

国際研究集会 2024 「複言語教育の横断性を考える」

2024年2月12日（月）

京都大学人間・環境学研究科地下講義室

2001年に初版が、2020年に増補版が公開されたCEFRは複言語教育を唱道する装置で、複言語教育は日本において現在では英語+1外国語の教育を正当化し、意義づける教育思想としてある程度の学界や教育関係者に受容されている。

複言語教育はすでにいくつかの教授法を提唱しているものの、それらは依然として十分に知られていない。「言語と文化の多元的アプローチのための参照枠」はCEFRから生まれた複言語教育を教育現場の中で普及するための装置のひとつであり、「言語への目覚め活動」、「隣接言語の相互理解教育」、「統合型言語教授法」、「異文化間教授法」を複言語教育として提示している。今回の国際研究集会はこの中でも隣接言語の相互理解教育などに焦点を当てる。隣接言語の相互理解教育はこれまでヨーロッパにおいて発展してきたが、日本での実践は行われているのだろうか。

また近年の複言語教育はさらなる展開を示し、言語教育の内部にとどまることなく、他の教科教育との連携を探りつつある。これは言語教育を総合的に捉える試みのひとつであり、全体論的な立場から「言語による教育」と「言語の教育」の総合を探っている。今回の国際研究集会ではこのような先駆的な取り組みをとりあげ、その理論と実践の動向を検討する。

開催趣旨

西山教行（京都大学） 9:30

基調講演

ピエール・エスキュデ（ボルドー大学、日本学術振興会短期招へい研究者） 9:45-10:25

指定討論者 ジャン＝フランソワ・グラジアニ（京都大学） 粕谷雄一（金沢大学）

10:25-10:35

シンポジウム1 隣接言語の相互理解を巡って 10:40

パネラー

山本冴里（山口大学）「隣語（りんご）」の効果的な教育をはばむもの——日本語と中国語の場合」 10:40-11:05

久松健一（明治大学）「フランス語と英語」 11:05-11:30

李在鎬（早稲田大学、人間・環境学研究科修了者）「コーパスデータから見た韓国語と日本語」 11:30-11:55

上田寿美、野澤 元（京都外国語大学）「2言語同時学習 - 英語・ポルトガル語の実践報告」 11:55-12:20

司会 中村典子（甲南大学）

指定討論者 ピエール・エスキュデ（ボルドー大学） 12:20-12:40

昼食 12:40-13:40

基調講演2

エラチアナ・ラザフィマンデインビマナナ（ニューカレドニア大学、京都大学特別招聘准教授） 13:40-14:20

指定討論者 マリー＝フランソワーズ・パンジエ（大阪公立大学）

14:20-14:30

コーヒーブレイク 14:30-15:00

シンポジウム2 教科を横断する言語教育の現在

パネラー

中川慎二（関西学院大学）政治教育とドイツ語教育 15:00-15:25

小柴裕子（宮崎大学、人間・環境学研究科院生）「技能を横断する日本語学習：ドローイングのアプローチから」 15:25-15:50

大山万容（大阪公立大学、人間・環境学研究科修了者）、梶山祐治（筑波大学）「外国語教室で複言語映画を観る」 15:50-16:15

ダニエル・ロイ・ピアース（四天王寺大学、人間・環境学研究科修了者）「外国語教員養成と比喩研究：AI時代におけるSFの可能性」 16:15-16:40

司会 フランク・デルバール（琉球大学、人間・環境学研究科修了者）

指定討論者 エラチアナ・ラザフィマンデインビマナナ（ニューカレドニア大学） 16:40-17:00

総括議論 17:00-17:30

大木充（京都大学）

懇親会 @ 18:00～